

防災プロジェクト「看護科」

<p>テーマ</p>	<p>THE 救護所大作戦 ～来て、見て、触って。意外に使える あんな物 こんな物～</p>
<p>目的 (背景・目標)</p>	<p>災害に対して関心を持ち、真庭高校専攻科生として、何ができるかを考える。校内の生徒や地域の人々に、身近にあるものが災害時に役立つということを知ってもらうことが、災害時に自分の身を守り、地域の人を守ることにつながることを活動を通して知ってもらう。</p>
<p>方法および内容</p>	<p>真庭地域で大災害が発生し、学校が避難所になった。要請により救護所を設置することになったという設定。自分たちにできることは何かを考え、学校内にある物品に注目した。体育用のマット、看護科の実習室にある様々な物品など身の周りには、搬送や応急処置に必要なものが数多くある。また、家庭にあるものも代用できるとして、買い物袋やボウルなどアイデアを出し合った。集めた物品を実際に使用してみた。傘・靴べら・パッドによる副木、買い物袋による三角巾、ボウルをヘルメット代わりにするなど身近にあるもので代用できるものが多く見つかった。</p> <p><白梅祭文化の部(9月7・8日)> 生徒や地域の方に対して、災害時に使える物品が、学校や家庭内に数多くあることを知ってもらい、実際に体験していただいた。 負傷した人の搬送については、道具がなくても人の手でできることを伝え、周囲の人の力が活かされることを知ってもらった。どこの家にもある毛布や物干し竿で人を運ぶことができるという体験をしてもらった。 生徒や来場された人の防災意識を知るためにアンケートを実施した。 身近にあるもので災害時に使えると思うアイデア物品を考えてもらった。</p> <p><おちあい元気フェスタ(11月11日)> 災害用グッズについては、かばんの中から取り出し、並べて展示した。手に取って見る人が多く、関心の高さがうかがえた。 買い物袋の一部にハサミで切りこみを入れるだけでできる三角巾の体験や、非常用トイレの説明は熱心に説明を聞く人が多かった。</p>
<p>結果および考察</p>	<p>校内や家庭には災害時に利用できるものが多いことがわかった。アンケートの結果からも、身の周りの物を使うというコーナーの関心度は高かった。生徒や地域の人々の災害に対する意識を高めることが、人の命を救うことにつながる。 アンケートの結果、災害に関する備えをしている人は少なかったが、これを機に準備しようと思うという意見もあった。防災グッズを手にとって見ることにより、使い方や必要性などを知ることができた。</p>
<p>まとめ (成果・課題等)</p>	<p>昨年度、東日本大震災で被災した方の話を聞いた生徒が、自分たちにできることはないかと考えた。専門科目である「災害看護」を学ぶことで、さらに災害に対して関心が高まった。 今回、学校に救護所を設置するという想定で活動した結果、学校の中には災害時に使える物品が数多くあることがわかり、生徒の災害に対する意識が高まり、真庭高校看護専攻科生としての使命感が生まれた。 校内の生徒や地域の人々に、身近にあるものが災害時に役立つということを知ってもらうことが、災害時に自分の身を守り、地域の人を守ることにつながるということを発信していくことが重要である。</p>



買い物袋を三角巾に代用



物干し竿と毛布で担架を作り搬送します



身近にあるもので代用できます



毛布で搬送できます



防災グッズはいろいろあります



「いざという時には
ボウルをかぶって逃げるわ」



地域の方のアイデアもいただきました



消防団の人も興味を持ってくださいました